

第40回全国都市緑化仙台フェア基本構想 概要版

1 全国都市緑化フェアについて

全国都市緑化フェアは、都市緑化の意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、もって緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として開催するものです。

昭和58（1983）年度に第1回が大阪で開催されて以来、全国各地で巡回して開催されています。概ね100万人以上の来場者となっており、各回において盛況となっています。

	第35回 平成30年度 (2018)	第36回 令和元年度 (2019)	第37回 令和2年度 (2020)	第38回 令和3年度 (2021)	第39回 令和4年度 (2022)
開催 自治体	山口県・山口市	長野県・ほか4市	広島県・広島市 ほか22市町	熊本市	北海道・恵庭市



第33回よこはまフェア
郊外部の「里山ガーデン」



第35回やまぐちフェア
山口きらら博記念公園



第36回信州フェア
長野県松本平広域公園

2 全国都市緑化仙台フェア開催の意義

（1）次世代へと続く新たな「百年の杜づくり」

緑化フェアの開催される令和5年度（2023年度）は、「杜の都の環境をつくる条例」の制定から50周年となる節目の年となります。

これまでのみどりを守り育んできた取組みを振り返るとともに、その多様な機能に着目したグリーンインフラ^{*1}の考えを市民・事業者と共有しながら、次世代へと続いていく新たな「百年の杜づくり^{*2}」を推進します。

（2）みどりと親しむ生活と新たな交流の創出

緑化フェアのメイン会場となる、青葉山公園、西公園、広瀬川、そして青葉通や定禅寺通などに代表される美しい並木が連なる都心部の「緑の回廊」は、長い歴史の中で市民に生まれ親しまれてきた「杜の都・仙台」のシンボルです。緑化フェアでは、これらみどりの様々な機能や、暮らしの中でみどりに親しみ憩うことの価値を再認識する契機とするとともに、本市の魅力の世界に誇れる杜の都ブランドとして発信し、国内外から来訪する人々との新たな交流を創出します。

（3）東日本大震災からのみどりの復興と防災のまちづくりの発信

東日本大震災は多面的かつ甚大な被害をもたらしましたが、かさ上げ道路の整備とともに、海岸公園の復旧や海岸防災林などみどりの再生も進め、まさにグリーンインフラを取り入れた防災機能を高めてきました。

被災時にいただいた支援への感謝とともに、みどりを活かしながら市民と一体となって取り組んできた復興のあゆみ、そして防災力の高いまちづくりを国内外へと発信します。

^{*1} グリーンインフラ
社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組み。雨水の貯留・浸透による防災・減災、生物の生息・生育の場の提供、良好な環境・景観の形成、気温上昇の抑制等などの機能のほか、コミュニティ形成の促進、レクリエーションや健康増進など多様な活動が行われる場となるなど、様々な効果が期待される。

^{*2} 「百年の杜づくり」
これまで受け継ぎ、育んできたみどりを百年というときをかけて次の世代へと伝えていくため、長期的展望を持ちながら、市民・事業者・行政が協働して緑の保全・創出・普及を進め、緑の中に都市が包まれる新しい杜の都を創造していく取組み。



昭和26年の青葉通での植樹
(出典：杜の都仙台の街路樹)



GREEN LOOP SENDAI
(出典：仙台市広瀬課)



仙台市東部沿岸地域での市民植樹

3 全国都市緑化仙台フェア開催の基本理念及び基本方針

〈テーマ〉

杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く

〈基本理念〉

百年先の、みどり豊かな杜の都を育むために

市民と事業者、そして未来を担う子どもたちとともに、“自然との調和ある環境の創造”を目指してきたまちづくりを振り返り、これまで培ってきたみどりの大切さや素晴らしさについて学び、気づく機会を創出し、担い手の育成はもとより、次世代へと続く「百年の杜づくり」へとつなげます。

杜の都のみどりと親しむライフスタイルの発見、そして人の交流があふれるまちへ

日常生活や余暇にみどりを積極的に取り入れた、仙台ならではのライフスタイルや働き方、みどりの活用の方など発見を目指すとともに、長い歴史とともに育まれてきたみどりが人や企業を呼び込む力となるよう、「杜の都・仙台」の魅力国内外へ向けて発信し、新たな交流やさらなる都市活力を生み出します。

復興からその先へ、みどりを未来へつなげる

震災からの復興にあわせ進めてきた防災・減災の取組みや、被災沿岸部のみどりの再生の取組みを発信・継承し、しなやかで強靱な都市、そして自然と調和した持続可能なまちづくりを進めるため、グリーンインフラの考えを取り入れ、ハード・ソフトの両面からみどりが持つ多様な機能に着目し、未来へ向けその可能性をさらに広げる機会とします。

〈基本方針〉

1. 杜の都のみどりの可能性を発信するフェア

- 「杜の都」を育んできた歴史やみどりの復興のあゆみを共有し、その大切さを学び、レガシーへとつなげる機会の創出
- 防災・減災、気候変動適応、生活環境向上、生物多様性保全など多様な機能や効果を持つグリーンインフラの大切さの共有
- 新たな生活様式や働き方のもとでみどりが果たす役割についての取組みの試行

2. 杜の都のみどりを体感するフェア

- 青葉山・広瀬川の自然環境や、定禅寺通などの美しい景観を活かした「杜の都らしさ」あふれる会場展開
- 豊かな自然や草花に触れ、憩い、遊び、楽しむ、みどりの素晴らしさを発見・実感できる場づくり

3. 次世代の担い手を育むフェア

- 子どもたちや若者も含めた幅広い世代の市民や事業者とともに実施するフェア
- フェア開催後の緑化推進活動等の担い手の育成や、グリーンインフラを市民との協働で支えるグリーンコミュニティの形成など、レガシーへとつなげる仕組みづくり
- 自然とのふれあいや環境学習、緑化保全の知識や技術の普及など未来へとつながる機会の提供

4. みどりと花に囲まれたライフスタイルを生み出すフェア

- 市民の暮らしの向上につながるみどりや花が身近にあるライフスタイルの提案
- みどりに人が集い、賑わう、仙台ならではの空間利用のあり方の創出
- みどりある空間の新しい楽しみ方のアイデアが湧き出るような機会の場づくり

5. みどりを通じて人がつながり、まちが賑わうフェア

- “訪れたい、暮らしたい、参加したい”を呼び起こすまちの魅力や仕組みづくり
- みどりが人々の周遊や消費を生み出し、地域経済の活性化へとつなげる取組み

緑化フェア理念の継承

4 基本的事項

(1) 名称	第40回全国都市緑化仙台フェア
(2) 主催者等	主催者：仙台市、公益財団法人都市緑化機構 事業主体：フェア事業の実行組織として実行委員会を設立
(3) 開催時期	令和5（2023）年4月下旬～6月中旬（予定）
(4) 入場者規模	会場条件、事業内容、交通対策、新型コロナウイルス感染症への対応等を勘案して基本計画で設定します
(5) 入場料設定	会場等は無料を基本とします（一部において有料エリアの設定や有料プログラムを検討します）

5 会場計画

立地・公園整備等のレガシー効果・交通の利便性等を考慮し、都心部の新たな緑のネットワーク拠点となる青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、広瀬川の一帯とします。

(1) 青葉山公園追廻地区

中心的会場として位置付け、見どころとなる大規模花壇や多彩な庭園などを展開します。



(2) 西公園南側地区

広瀬川、大橋、青葉山を一望できる良好な景観を活かした会場づくりを行います。



(3) 広瀬川

河川敷へのアプローチや広場・散策路など、親水性の高い空間づくりを行います。



メイン会場

その他の会場等

■ まちなかエリア

都心部に回遊性を創出し、フェアの盛り上がりが見られるよう、街路空間や公園などでの事業展開を図ります。



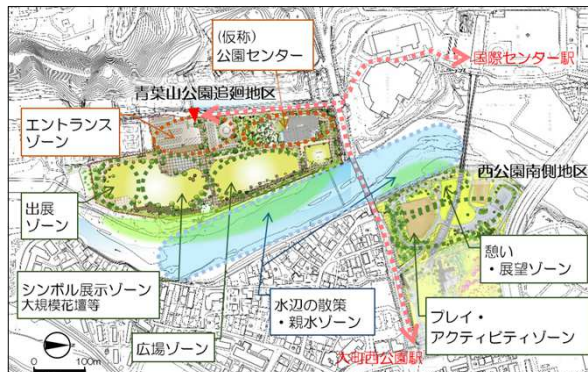
■ 東部エリア

東日本大震災からの復興を発信するという開催意義も踏まえ、高砂中央公園や海岸公園周辺での事業展開を図ります。

◇メイン会場とまちなかエリア



◇メイン会場整備イメージ



6 事業計画

(1) 展示計画	「杜の都・仙台」のみどりが育まれてきた歴史や文化、花やみどりの素晴らしさを体感できる展示でフェアを彩ります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 市民参加でつくる大規模花壇 ▶ 花と緑に囲まれたライフスタイルを提案するテーマ型の花壇・庭園 ▶ リモートワークなどに対応できるワークスペースの提供 ▶ 仙台の豊かなみどりが育まれてきた歴史などのパネル展示 	
(2) 出展計画	市民活動団体、地元企業、学校、他自治体など幅広く出展・参加を呼びかけ、みどりや花に関する成果を表現する機会とします。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 造園・園芸団体等による、花壇や庭園などの作品展示 ▶ 庭園文化に伝わる伝統の技や知恵、グリーンインフラや最新の緑化技術など、企業とのタイアップ等による出展 	
(3) 行催事計画	「新たな百年の杜づくり」を主なテーマとし、仙台の魅力を活かした行催事でフェアを盛り上げます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「百年の杜づくり」やグリーンインフラへの理解を深めるシンポジウム ▶ みどりあるライフスタイルや新しい公園の活用のあり方について考えるワークショップ ▶ 震災復興の経験と記憶の継承や防災意識の向上を目的とした、震災伝承施設など東部エリアをめぐるスタディツアー 	
(4) 協働推進計画	フェア開催後の新たな緑の活動やコミュニティ形成などのレガシーへとつながるよう、市民や事業者、団体など様々な主体がフェアに参加する仕組みを整えます。	
(5) 飲食・物販計画	会場のみどりや花の演出を活かし、楽しく食を堪能できる空間づくりとします。	
(6) 広報宣伝計画	エリアやターゲットを設定して、仙台フェアのPRやキャンペーンを積極展開し、開催までの機運を高めます。	
(7) 会場運営計画	新型コロナウイルス感染症対策も含め、誰もが安全で快適に楽しめるユニバーサルな観点を取り入れた会場運営とします。	
(8) 交通輸送計画	メイン会場への来場は地下鉄、バスの公共交通機関の利用を基本とし、利用促進に向けた十分な広報と誘導策の実施を図ります。	
(9) 植物調達計画	県内市内の生産団体等との連携・協力による植物調達体制を構築し、安定的な生産と供給を図ります。	

7 事業スケジュール

	開催3年前 R2（2020）年度	開催2年前 R3（2021）年度	開催1年前 R4（2022）年度	開催年 R5（2023）年度
計画策定等	基本構想	基本計画	実施計画等	緑化フェア開催
国との協議	大臣開催同意			
実施体制	基本構想検討 組織設置	基本計画検討 組織設置	実行委員会設立	実行委員会解散
組織体制	◆ 専属担当設置	◆ 実行委員会 事務局設置		
会場整備等	設計・整備	（公園整備と連携）		